

# 北関東自立援助ホームを対象とした研修 (通年)

茨城県自立援助ホーム協議会

〒312-0062 茨城県ひたちなか市大字高場 1822-28

## 助成事業の概要

表題 「一般社団法人『LANS』の活動について」

### 実施目的

1. 自立援助ホーム職員たちが、虐待、特にネグレクトを受けた子ども特有の行動様式に対し、理解を深めること
2. 自立援助ホーム職員たちが、上述の子どもたちに手を焼き、無関心になるなど、マルトリートメントに陥らないよう予防すること

### 対象者

1. 茨城県内の自立援助ホーム職員
2. 北関東 (茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県)、27ホームの職員

### 期間

1. 令和3年4月から令和4年3月までの1年間で、講義及び視察14回行った。

### 内容

1. 茨城大学大学院教育学研究科准教授金丸隆太先生による講義等10回  
表題 「TF-CBT (トラウマフォーカスト認知行動療法)」
2. 児童心理治療施設 内原深敬 寮 心理士長 佐名手三恵先生による講義2回  
表題 「子どもの心理的ケアを行う上で大切にしていること ～児童心理治療施設での心理職としての実践から～」
3. LANS (Life Assist Network Service) 代表 浅井和幸先生による講義1回、視察1回

## 事業の成果

北関東地域には現在27の自立援助ホームが運営を行っていますが、自立援助ホームに特化している継続性のある研修会を開催することはありませんでした。そのため、各ホーム職員が専門的な知識を持たないまま手探りで児童支援を行なっている状況が続いていました。近年では、入所児童の中に障害を持つ児童の割合が増加し、支援の複雑化をどのホームも感じていました。そのような背景の中で、毎月一回のZOOMによる学習会を初めて開催し、平均30名以上の参加者が専門的な支援方法を学ぶことができました。心理学的専門性のある自立援助ホームに適した内容の学習を行うことができ、支援の質的向上につながりました。今年度は、茨城大学大学院准教授の金丸隆太先生を講師として迎え、認知行動療法に基づく児童へのトラウマケア・児童への適切な対応の仕方を学習しました。各ホーム職員がすぐに実際の児童処遇場面で活かすことのできる知識を得ることができ、日々業務にあたる上で明確な指針を持つことができました。児童処遇のみではなく、職員のメンタルヘルスケアについてもあわせて学ぶことができたため、より良い職場環境にするためにどのようなことに気をつけるべきかも具体的に知ることができました。今回の講習会では、ZOOMという技術を使用して遠隔地においても研修の場を確保できることが証明されまし

た。学習にとって一番必要なことは継続であり、今後も自立援助ホーム職員が学ぶことのできる研修会を継続して行なっていきます。

茨城大学大学院准教授で臨床心理学を研究なさっている金丸隆太氏を講師に迎え、自立援助ホーム職員へ向けた勉強会を行いました。この勉強会のテーマは「子どもの心の傷を理解して、適切に関わる」です。ホームには心の傷、いわゆるトラウマを抱えている子どもが多く、そしておそらく、誰も気づいていないトラウマもあって、実際には、ほぼすべての子どもが何らかのトラウマを抱えていると思われます。職員が一生懸命に関わっても、反応が素っ気なかったり、反抗的になったりする理由のひとつに、トラウマがあります。対人援助の専門家として、熱意を持ち関わるのは当然ですが、同時に冷静に、科学的な知識をもって、効果が証明されているかかわり方をすることも重要です。

勉強会では、その知識と方法を、具体的には、トラウマ、認知行動療法、TF-CBTなどについて学びました。講師からは理論や知識を提供して頂き、ホームスタッフからは、実際のホームでの子どもたちの様子について意見交換を行い、勉強会は実践的で子どもの役に立つ内容となりました。

## 成果の広報・公表

虐待などはトラウマになりえる。そして虐待は、脳にダメージを与える。やる気のなさや、リストカットなどの問題行動は、そのPTSDが要因である。その治療を進めない限り、行動修正プログラムは、効果をほとんど示さない。

また、虐待を受けた子どもは、虐待をした親などだけでなく、他の一般の大人も信用しなくなる。どんな良いプログラムを使っても、その子どもと治療者との間に、信頼関係がないと効果は期待できない。時間はかかるが、はじめに愛着関係のゆ

がみ修正を行いつつ、トラウマからの回復を目指す。そののちにあらゆるプログラムや治療が効果を発揮する。この度の勉強会で学習したことである。

以上のことを、茨城県自立援助ホーム協議会、タムタム、吾が家、ハレルヤファミリー、えがおの家、みらいのHPに当該成果を載せ広報を行う。並行し、配布用報告書を作成し、茨城県や児童相談所に配布する。

## 今後の展開

令和3年度は、TF-TBC（トラウマフォーカスト認知行動療法）の基礎概念、考え方を1年かけて学んだ。27ホームが対象であったため、多い時には30人を超える参加者がいた。新規ホームや、10年以上運営しているホーム、老舗ホームの参加者もいた。そのため、心理学に対する知識や学ぶ姿勢に大きな隔たりがあった。

令和4年度も引き続き、TBC（認知行動療法）を学ぶ予定である。そして、療法（トリートメント方法）を身につけるために、演習や事例検討を取り入れた勉強を進める。令和3年度の課題を受け、今年度は新規参加者を募集せず、TF-TBCの基礎概念を学んだホーム職員のみを参加対象とする予定である。それにより参加者の能力や動機づけのばらつきを最小限にして、より実りのある勉強会としたい。

以って、茨城県自立援助ホーム協議会に属する会員のキャリアアップを図り、自立援助ホームに入居している子どもたちが、元気いっぱい社会へ巣立っていく一助としたい。